

開運大摩利支天閣 最上稲荷庭瀬支院 覚如山本了院

## 妙法華寺便り

令和4年10月号

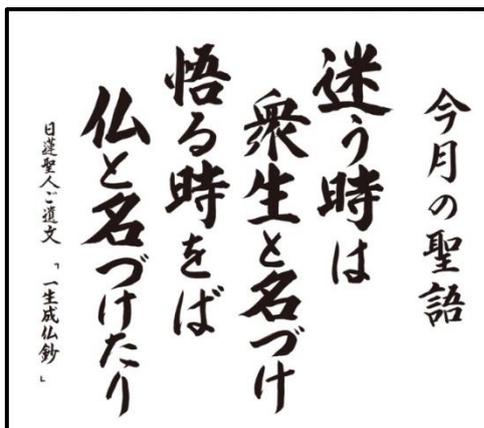
### ◇ 行事報告 ◇

9月18日（日）摩利支天月例祭

2日後には秋季彼岸・施餓鬼法要を控え、ほぼ飾り付けが出来ている中、本堂で執行いたしました。式典後は総代世話人の方には小幟を立て、本堂や山門には幕を張って頂きました。婦人会の方には施



餓鬼菓子の準備をして頂きました。ありがとうございました。



さて、今回の標語は当山のお経本（P96）にもあります日蓮聖人の御遺文（残されたお手紙など）の「一生成仏抄」（建長7年(1255) 聖寿34歳の時）からの抜粋です。

解説には、次のようにありました。

「富木常忍に与えられたとされ、心からお題目を唱え、一生のうちに成仏の極みを得られるよう勧められた御書です。一生成仏とは即身成仏に置

き換えられる言葉です。お彼岸は、私たちの迷いをおさめ、善き心と行いを積み重ねることを勧める期間です。悟りと迷いの日々の中、人を救いたいというお釈迦さまのお気持ちにどれだけ近づき、同じような行いができるでしょうか...

徳川光圀公は、巡行の折に、親を背負って行列を見せた孝行息子に褒美を取らせました。次の時、それを真似した悪童にも褒美を与えました。納得のいかない家臣に一言。「悪行を真似れば悪人となり、善行を真似するなら善人となろう。善きことを真似するのは、大いにけっこう」と、家臣を諭しました。手を合わせるお釈迦さまのお姿は、すべての人やものを敬う尊いお姿です。私たちの生き方のお手本となります。人間の善き心と善き行いは、周りの人を幸せに導きます。まずは手と手を合わせる仏さまのお姿の真似をしてみることから始めてみましょう。」と。

是非この機会に、お経本を開き、「一生成仏抄」一読してみましよう。

## 9月20日（火）秋季彼岸・施餓鬼会

午後1時より、庭瀬組寺のお上人方と共に秋季彼岸法要（施餓鬼会）を執行いたし



ました。檀信徒の皆様より申し込まれた塔婆に水向けを行い、香を焚き、お経を唱え、ご供養いたしました。台風の影響で天気が心配されておりましたが、当日大幟、吹き流しも建てる事ができ、雨に打たれる事も無く、無事執り行うことが出来ました。ありがとうございました。

また、当日のお世話・ご接待、準備、片付けをして頂きました総代世話人をはじめお手伝いいただきました方々に感謝申し上げます。

今年もお地藏様の赤い服が、富山直子さんのご供養により、新調されました。ありがとうございました。

### ◇ 行事案内 ◇

#### 摩利支天月例祭

11月18日（金）・12月18日（日）

午前10時より執行いたします。

#### お会式法要

11月19日（土）お逮夜・翌20日（日）に執行いたします。

19日は午後6時より、20日は、午前10時より一座目、午後2時30分より最終座を始めさせていただきます。（20日の一座目と最終座の間は随時）マスクを着用してお参りください。

妙法華寺便り9月号でもご案内させていただいておりました「御浄財」を宜しくお願いいたします。また、お寺から直接案内させて頂く檀家の方には、振り込み用紙を同封させて頂いておりますので、宜しくお願いいたします。

### ◆ 戸守経のご案内 ◆

11月に入りましたら、近郊のお檀家の方には、年末の「戸守の御経」の連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。また、新年を迎えるにあたり、台所・トイレ等の紙札を希望される方は、お寺までご連絡下さい。

